

2017  
年度

# 新入生に すすめる 本

先生・先輩方による読書のススメ



日本赤十字九州国際看護大学



新入生のみなさん

# ご入学おめでとうございます



本学では、平成18年度から、毎年の入学式で『学長が  
「医療に携わる人として深い教養と知性を身につけてほ  
は、みなさんにより本に親しんでもらえるよう昨年度から  
として生まれ変わりました。先生方や在校生が、新入生の  
を選んでいきます。やる気を奮い立たせてくれる本、知的な  
いました。

掲載している本は図書館に所蔵していますので、実際に  
大学での学び始めに、ぜひご覧ください。

新入生に薦める100冊の本』を配布してきました。  
しい」という喜多名誉学長の願いにより始まったこの試み  
内容とデザインを一新し、教員と在学生によるブックガイド  
皆さんに向けて「学生時代にぜひ読んでほしい!」という本  
刺激を与えてくれる本など、さまざまなジャンルの本が出揃  
手に取ってみることができます。

田村 やよひ 学長のおすすめ



『人生の四季に生きる』日野原重明著,  
岩波書店, 1987.



皆さんは著者をご存知でしょうか。今105歳になる内科医で、聖路加の看護学教育にも大きな貢献をされた方です。

人生を春夏秋冬に分ける考え方は日本人にとっては馴染み深いものですが、それぞれの人生の季節を文学者や哲学者の言葉も引用しながら味わい深く記述しています。

自分らしい花を咲かせるために、また看護の対象者を深く理解するために本書をお勧めします。

(2F 開架 159H)

図書館長 リベラルアーツ・専門基礎領域  
吉永 宗義 教授のおすすめ



『看護のアジェンダ』井部俊子著,  
医学書院, 2016.



2005年から週刊医学界新聞に連載されていたものが、昨年単行本として出版されたものです。全部で133のテーマ、それぞれが2~3ページにまとめられていて読みやすい本です。

「看護の・・・」とあるから、看護に関する書物であることは違いありませんし、「アジェンダ」だから検討課題です。しかし、この本には看護の現場で直面している問題、看護教育、看護研究、看護政策、看護理念などの看護に関する要素に止まらない、人間として考えざるを得ない多くの課題が述べられています。

新入生には難しい内容もあるでしょうし、看護実習に行きはじめて気付くこともあるでしょう。卒業して読み返して、なるほどと納得することもあると思います。看護・医療の専門家として読んで欲しいというより、一人の人間として看護を考えるきっかけにして欲しいと思います。

(2F 開架 N11)





看護の基盤領域  
阿部 オリエ 准教授のおすすめ



『人を動かす』D.カーネギー著；山口博訳，  
創元社，1958.

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。看護職になりたい人も、そうではない人も、ぜひ読んでほしい一冊はこれです。

この本は、大きく4つに分かれており、PART1は、「人を動かす三原則」、PART2は、「人に好かれる六原則」、PART3は、「人を説得する十二原則」、PART4は「人を変える九原則」となっています。それぞれ、分かりやすい事例が書いてあり、どのように対象を理解して、どう関わっていけばよいかといった指南書になっている面もあり、とっつきやすい本になっていると思います。

これから、いや、これまでも、あなた方は大なり小なり人を動かす経験をしてきたと思いますが、今後は必ず人を動かさないといけない時がやってきます。それも、意図をもって人を動かさなければならぬのです。この本を読み進めていくと解ると思いますが、人を動かすって、自分を動かさないといけないんです。人を動かす自分をどう見つめていくかなんです。人って簡単には動かないんですが、自分を動かすのは自分次第ですものね・・・。

(2F 喜多文庫 159|C)

3年 有浦 旭香 さんのおすすめ



『風に立つライオン』さだまさし著，  
幻冬舎，2013.



私がおすすめする本は、さだまさし著の『風に立つライオン』です。映画も公開されているので知っている人もいると思います。

この本は、主人公の航一郎という医師がアフリカのケニアにある戦傷外科病院で多くの人を毎日のように治療するだけでなく、心に大きな傷を負って心を閉ざしていても、毎日毎日根気強く航一郎の明るい性格で話しかけ続けることでどんな人の心も開き、動かしていくというお話です。

皆さんの中には将来、看護師として海外で働きたいという人もいると思います。言葉や人種、宗教など全く違って、どんな人とも心を通わせることのできる航一郎の姿から看護師になる私たちも多くのことを学ぶことができると思います。ぜひ、読んでみてください。

(2F 開架 913.6|S)

2年 荒木 美智子 さんのおすすめ



『神様のカルテ3』夏川草介著  
小学館，2012.



『神様のカルテ』は2011、2014年に映画化され、話題になったので

知っている人は多いと思いますが、今回紹介する本はその続編の3巻目です。

このシリーズは地域医療の日常を題材としており、現役で医師として働いている著者が執筆しているので、とてもリアリティがあります。読んでみると、この状況だと自分はどのような行動をとるだろうかと考えることが多く、本の内容の面白さだけでなく、自分の将来の役にも立つと思います。

3巻は、主人公と新しく登場する医師の医療に向ける考え方の違いを中心に展開されており、とても考えさせられる内容でした。

みなさん看護の大学に入学されたので、ぜひ医療系の本を読むきっかけにこの本を読んでみてください。

(2F 開架 913.6|N)

2年 岡村 里美 さんのおすすめ



『ワンダー』  
R・J・パラシオ著；中井はるの訳，  
ほるぷ出版，2015.



これは、「普通」ということに憧れたオーガストという名前の十歳の男の子のお話です。

彼は遺伝子疾患によって顔に重度の障害を持って生まれてきました。この本には、周囲には受け入れ難い特別な顔を持つオーガストの、十歳にして初めて通った一般の小学校での生活が描かれています。また、オーガストの視点だけでなく、彼の家族や差別をする側の子供たちの心境も記されています。

差別や偏見はいけないと頭では分かっている、心のどこかで彼と自分は違うのだと線引きしてしまう子供たちの葛藤は、子供と大人の狭間にいる今の私たちが、知り、考えるべき内容だと感じました。

児童小説で、読みやすいので是非読んでみてください。

(2F 開架 933.7|P)



国際看護領域  
小川 里美 准教授のおすすめ



『戦後日本の看護改革：  
封印を解かれた GHQ 文書と証言による検証』  
ライダー・島崎玲子, 大石杉乃編著  
日本看護協会出版会, 2003.



みなさんはこれから4年間、大学で看護を学びます。本学では異なった国々の看護に触れる機会があり、特に開発途上にある国の看護について疑問を抱く人は多くいます。しかし、日本の看護も最初から今のようになったわけではありません。第二次世界大戦後、日本がどのような過程を経て現在に至っているのか、戦前・戦後の日本の看護の実態、看護教育制度、看護師制度の変革について貴重な資料をもとに記載されています。看護を学ぶにあたり、是非、一読してください。

(2F 開架 NO211R)

3年 佐加良 捺代 さんのおすすめ



『人生を変える勇気：  
踏み出せない時のアドラー心理学』  
岸見一郎著, 中央公論新社, 2016.



皆さんは今の自分を変えたいと思ったことはありますか？

また、悩んでいる事がありますか？

一概に悩んでいることといっても人間関係についての悩み、恋愛や勉強についての悩みなど様々な悩みがあると思います。この本は、そのような悩みを持つ人の88個の悩みについて作者である岸見一郎がアドラー心理学を基に伝えていくという内容です。悩みへの回答は少し厳しめの心に刺さる様な回答が多いため最初は心が折れそうになることもあります。読み進めていくと視野が広がり、だんだんと自分がどうしたいのか、見えてくると思います。是非手に取って読んでみてください。悩みがある方は解決のきっかけとなるものを掴めるかもしれません。

(2F 開架 146.8IK)

2年 笠井 麻結 さんのおすすめ



『十二国記』シリーズ  
小野不由美著, 新潮社, 2012-.



あなたはこの世界に違和感を感じたことはありませんか？

日本の普通的女子高生である中嶋陽子は、ある日謎の男が目の前に現れたことから人生が大きく変わります。男は陽子の前でひざまずくと、陽子を自分の主と言い、そのまま異世界へと連れ去るのです。

そこは、十二の国々が幾何学模様のように並んで存在し、人だけでなく神や妖魔が住む世界でした。

見知らぬ世界で陽子は人の裏切り、醜さ、愚かさを目の当たりにしながらも懸命に生き抜くことを決意します。過酷な運命に翻弄されるなか、やがて彼女は知る事となります。なぜ自分は这个世界に連れてこられたのか、自分の生きる意味とは何なのかを。

陽子がもがき苦しみながらも必死に生きていく姿に、とても胸を打たれる作品です。読めば、不思議な世界へと引き込まれるでしょう。

もしかすると、あなたがいるべき本当の世界がどこかにあるかもしれませんね。(2F 開架 913.6IO)

メンタルヘルス領域  
高橋 清美 教授のおすすめ



『がんを生きる』佐々木常雄著,  
講談社, 2009.



本書は、がん告知後の患者さんと医療者がどう向き合うのか、さまざまなエピソードを交えながら読み手に問いかけている。

「私が死んだあとの家事をたくさん教えなきゃ、寝たきりの私でも役に立つことがある・・・」、「小さな子を失った親には子に会える天国、あの世が必要」、「朝になってからのほうが安心して眠れる、チュンチュンという鳥の声と看護師さんの足音が一番の睡眠薬です」、これらの言葉の深い意味を、皆さんはこの大学でこれから学んでくださるのだと期待している。

死を告げられると、誰しも恐怖や不安を抱えるのだと思う。第8章では、短い命の宣告で心がつらい状況にある人に対し、奈落から這い上がる具体的方法が記載されている。それは、気持ちの整理のために書くこと、泣ける・話せる相手を見つけること、と記されている。これから、看護学を学ぶ新入生にぜひ薦めたい一冊である。

(2F 開架 494.5IS)



ヘルスプロモーション・在宅看護領域  
千原 明美 助教のおすすめ



『障害受容はいのちの受容：  
頸髄損傷からの社会復帰』

丸山 柩子, 松尾清美著, ヒポ・サイエンス出版, 2016.

これは、交通事故で四肢まひとなった大学教員とその妻の克明な記録を振り返り、障害受容について記載された本です。障害受容でも中途障害の場合、治療や障害受容を支える専門職の役割が重要であり、その専門職の具体的な業務、役割についてもまとめられています。

著者の一人の松尾先生には、私が大学在学中に社会福祉を教えていただき、いろいろな活動の際にも一緒にさせていただいたり、本書にも書かれている障害を持つ方の具体的な生活面についても教えていただいたりと、とても多くのことを学ばせていただきました。頸髄損傷の病態や患者の日常生活についても具体的に書かれておりわかりやすい1冊ですので、是非医療職を目指す新入生の皆さんに読んでいただきたいと思います。

(2F 開架 916||M)

成育看護領域  
永松 美雪 教授のおすすめ



『聞く力：心をひらく35のヒント』  
阿川佐和子著, 文芸春秋社, 2012.



キャスターの阿川佐和子さんの『聞く力：心をひらく35のヒント』をおすすめします。この本には、子どもから高齢者まで、様々な人がつい本音を語ってしまうコミュニケーション術が披露されています。「この人に語りたい」と思うような聞き上手になるためのヒントがいっぱい詰まっています。辛い体験をした人に対して「話を聞くことで、人様の役に立つ」ということは、看護にも通じる場所があると思います。また、最近ではメールで話を済ませてしまう傾向がありますが、実際に顔を合わせながら話しかける会話は、表情や動作とともに言葉が伝わっていきます。相手の気持ちを理解しながら聞ける看護師を目指している皆さんに読んでほしい一冊です。

(2F 開架 361.454||A)

もうこの本を知っている方は多いと思います。しかし、読んだことはありますか？

この本はタイトルとは裏腹に、青春小説というジャンルに属します。青春といえば、みなさんはどのようなものをイメージするでしょうか？

さて、この小説は病気を患い、寿命が少ししか残っていない少女と、それを知ってしまった少年の物語です。となれば、ラブストーリー？ 確かに、そのような部分も感じられますが、これはまさに青春、と言った方が正しいと感じる小説でした。少年にしてみれば、彼女は「友達のような恋人」と「恋人のような友達」どちらだったのででしょうか。それは、衝撃の結末を読んでから、考えてみてください。

3年 平田 剛士 さんのおすすめ



『君の脾臓をたべたい』  
住野よる著,  
双葉社, 2015.  
(2F 開架 913.6||S)

2人からおすすめ  
されました！

3年 山本 千紘 さんのおすすめ



『君の脾臓をたべたい』。このタイトルから想像する本の内容は人それぞれ違うでしょう。私がこのタイトルを見た時、初めはグロテスクな内容かと思いました。しかし、カバーデザインを見てみると繊細に描かれており、凄く綺麗で惹きつけられました。皆さんにも、この本のタイトルとカバーデザインとのギャップを実際に見て感じて欲しいです。

私は普段あまり読書をする人間ではないのですが、途中で読むのを止める事が出来ないくらいにすると本の世界に引き込まれ、2日ほどで読み終えてしまいました。主人公とヒロインの互いの呼び名が何度も変化していくため、その変化に注目しながら読んでいく事をおすすめします。

読書好きな方だけでなく、私と同様に読書をあまりしないという方にも是非読んで頂きたいです。7月28日には映画も公開されるので、公開前に読んでみてはいかがでしょうか。



成育看護領域  
橋本 真貴子 助手のおすすめ



『グッド・フライト、グッド・ナイト：  
パイロットが誘う最高の空旅』  
マーク・ヴァンホーナッカー著；岡本由美子訳、  
早川書房，2016.



勉強や難しい本を読むのに疲れた時、おすすめのエッセイ。特に旅好きの人には。現役の英国航空パイロットである著者が、繊細で詩的な表現力で空の旅の魅力をたっぷりと語ってくれます。飛行機や航空業界だけでなく、水や空気といった自然界のトリビアもぎっしり詰まっていて、理系的な好奇心も満たしてくれます。この本を読んでいる時は、からだは地上でも心はすっかり上空に舞い上がっていました。次の空の旅が楽しみになります。

(2F 開架 687.04|V)

3年 堀 翔吾 さんのおすすめ



『氷菓』  
米澤穂信著，KADOKAWA，2001-.

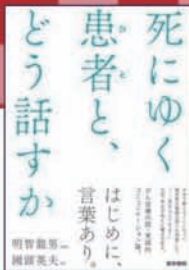


新入生みなさん、ご入学おめでとうございます。この春から新しい環境で新しい生活を過ごしていくみなさんにおすすめの本を紹介させていただきます。米澤穂信の処女作品『氷菓』です。

この作品は、何事にも積極的には関わろうとしない省エネ少年・折木奉太郎が、なりゆきで入部した高校の古典部の仲間と信頼され、日常に潜む謎を解決していく連作青春ミステリとなっています。特に、最後は題名にもなっている「氷菓」の本当の意味を紐解いていくお話で、私もすごくおすすめのエピソードです。

高校生から大学生になった皆さんには、期待と不安が入り混じっていて最初はとまどうこともあるかと思いますが、そんな生活の中で心を落ち着かせたいときに読んでいただければ幸いです。(2F 開架 913.6|Y)

クリティカルケア・災害看護領域  
福島 綾子 助教のおすすめ



『死にゆく患者(ひと)と、どう話すか』  
國頭英夫著，医学書院，2016.



我々はプロだからね、(中略)不完全だろうが、一時的だろうが、とにかく目の前のことに対して「答」を出して行動しなければいけません。ただ手をこまねいて考えているだけ、は許されない。そこをスタートとして我々は次に向かうのです。「答」を出すことは「考える」第一歩でもあるのです。(本文より抜粋)

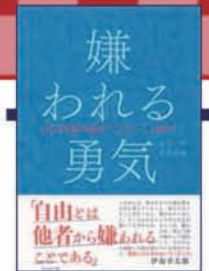
これから皆さんはたくさんの「問い」と向き合うことになると思います。おおいに悩んでください。

その問いの答えを出す方法は、考えること、そして語ること、だと思えます。語る相手は、隣の友人であり、私たちです。たくさん本を読んで、たくさん語りましょう。(2F 開架 494.5|K)

老年・慢性看護領域  
山本 孝治 助教のおすすめ



『嫌われる勇氣：  
自己啓発の源流「アドラー」の教え』  
岸見一郎，古賀史健著，  
ダイヤモンド社，2013.



本書は、アドラーの心理学が凝縮されており、「すべての悩みは対人関係の悩みである」とした前提から、幸福に生きるための具体的な術(処方箋)が書かれています。哲人と青年の対話で構成されているため、哲学的な内容ですが、本を読む習慣がない人でも気軽に手に取れる一冊です。青年の問いは、誰もが日常的に悩む事象であり、それに応じる哲人の語りは、読者に向けたメッセージとなっています。

本書の一説に、「自分の生き方を貫くには他者にどう思われるかよりも自分がどうあるかを大事にする、他者から嫌われることを怖れない。幸せになる勇氣には嫌われる勇氣が含まれる」とあります。読み終えた時、この一説の真の意味に気づき、人生の意味を再考するきっかけを得ていると思います。

(2F 開架 146.1|K)



リベラルアーツ・専門基礎領域  
守山 正樹 教授のおすすめ



『「知」の欺瞞：  
ポストモダン思想における科学の濫用』

アラン・ソーカル、ジャン・プリクモン著；  
田崎清明，大野克嗣，堀茂樹訳，岩波書店，2012。



学生の皆さんは哲学書を読んだことがあるでしょうか。私が新入生だった当時は大学紛争が盛んでフランスの哲学書が流行していました。

一方最近フランスの知識人の名前をあまり耳にしません。彼らはどうなったのかと思っていましたが、この本を読んで理由がわかりました。この本は「近年の代表的なフランス知識人といわれる人々の著作が、物理や数学を多く引用して難解に見える一方で、引用の正しさを分析した結果、その殆どが意味不明だった」という告発書です。英語の書名は『Fashionable nonsense (ファッショナブルなデタラメ)』、学問が見せかけだけを追求した結果行き着いたとんでもない世界が描かれています。面白い本ですがショッキングでもあります。高度な知識や教養を身に付けようと入学した大学で、そこで書かれた本の一部が実はデタラメだ、ということになると何を信じていいかわからなくなるかもしれません。では何を信じたら良いのでしょうか。

わが大学が掲げる「国際」に関連していうなら「各国で人々のために働く医療や看護の現場の実践者の話」は「学者の書く本」よりも真実に近いかもしれません。先月わが大学では世界 10 カ国から 12 人の実践者が集い JICA 九州の援助を得て研修コースが行われました。その中で参加者の体験を聞く機会があり、私はシエラレオネから来た B さんの「内戦やエボラ出血熱などで大変だった 10 数年をどう生き延びたか」という話が特に心に残りました。

皆さんが入ったこの大学には多くの書物を揃えた図書館がある一方で、外国からの訪問者の話を実際に聞いて学ぶ機会もあります。どちらの学びも大切です。入学を機会にぜひ様々な本を読み、また様々な人の話を(ときには日本語以外の言語で)聞き、真実とは何か、自分で考え始めてください。

(2F 開架 401|S)

3年 吉田 日向子 さんのおすすめ



『人生の意味の心理学』

アルフレッド・アドラー著；岸見一郎訳，  
アルテ：星雲社(発売)，2010。



この本の魅力は、「自分を知ることが出来る!」ところです。幼少期の思い出から、自分が歩んできた人生の意味がわかるのです。本には人生の意味を知るためのヒントが沢山書かれているので、ぜひ自己分析してみてください。看護職を志す者として、自分を知ることが他者を知ることの第一歩だと思います。

アドラー自身が書いたもので、少し読みにくいかもかもしれませんが、大学では読みにくくても読みたくなくても読まなくてはならない文献がたくさんあります。大学入学を機に自分と向き合い小さな一歩を踏み出しましょう。

(2F 開架 146.1|A|1~2)

4年 吉田 恵 さんのおすすめ



『おべんとうの時間』

阿部了 写真；阿部直美 著，  
木楽舎，2010-。



この本は ANA の機内誌「翼の王国」に連載されているインタビューを本にまとめたものです。おべんとうとその持ち主の写真とインタビューからおべんとうに込められた家族の思いや、その方の今までの人生ドラマを感じることができます。

新入生の皆さんの中には実家を離れ一人暮らしを始めた方が多くいるかと思いますが、なんだか少し寂しくなったな、大学生活って大変だなと思ったとき、ぜひこの本を手にとってみてください。きっとあなたには、あなたを心配しながらも応援してくれている家族や友達がいることを思い出すことができます。おべんとうの不思議な力を感じてください。

(2F 開架 596.4|A|1~3)





# 参加してみますか？

今回本を紹介してくれた先輩方は、昨年度の学内ビブリオバトルの発表者です。

みなさんは「ビブリオバトル」という言葉を聞いたことありますか？



ビブリオバトルは、本の紹介コミュニケーションゲームです。

「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチコピーに、知らない本や人に出会い、世界が広がる新たな知的ゲームとして、大学や図書館だけでなく、小・中学校から地域のコミュニティまで幅広く行われています。毎年、高校生・大学生を対象にした全国大会も開かれています。

やり方は、発表者による本の紹介を聞いて、その中で一番読みたくなった本を選び、もっとも票を集めた本がチャンプ本になるというとてもシンプルなものなのです。

図書館では、全国大会の予選会も兼ねて年2回程度開催しており、今年度も出場者を募集しています。

「発表はちょっと・・・」というそのこのアナタ。まずはどんなものか聞いてみるだけでも構いません。

みなさんもぜひ参加してみませんか？

## ビブリオバトルのやり方



本を選ぶ



発表する



3MIN

議論する



チャンプ本を選ぶ

# 知的書評合戦 ビブリオバトル







<https://www.jrckicn.ac.jp/library/library0503/library0502/>

平成 29 年 4 月 6 日 発行

発行者 日本赤十字九州国際看護大学図書館

<https://www.jrckicn.ac.jp/library/>